

CSR活動推進における環境活動1 サンディンググループの環境活動とは？

CSR活動においてサンディンググループが特に注力しているのが、経営方針にも明確に示されている環境への取り組みです。サンデンの先進的な「環境技術」により、環境保全に貢献することこそが企業としての社会的責任を果たすことであり、それにより初めて企業としての存続・価値が社会に受け入れられると考えます。持株会社化のメリット、体制を最大限に活かし、サンディンググループ一体となって環境保全対策をグローバルに推進していきます。



サンデンを取り巻く環境課題

サンディンググループのみならず、企業を取り巻く環境問題に対する課題は「待ったなし」で進めていかなくてはならない状況にあります。気候変動や資源の枯渇、世界的レベルでの水枯渇問題など様々な要因が存在する中で、省エネルギー対策や各種のリサイクル対策、廃棄物管理対策、フロン排出抑制対策、化学物質管理対策といった政府による環境法規制強化がある一方、お客さまからは環境適合設計やリサイクル率向上、製品環境負荷の算出、グリーン調達、有害化学物質削減といった製品に対する環境対応が求められています。さらに、環境対応に関する情報公開や環境アセスメントの実施、各種環境関連の企業ランキングといった“社会の目”による監視も強まっています。現代社会においてはもはや、環境対応なくして企業の存続はあり得ないと言えます。

サンデンの環境に対する基本的な考え方

ではサンデンホールディングスと7つの事業会社、さらに国内外のグループ会社を含めて、サンディンググループは環境問題に対して「何を」「どのように」推進していけばよいのか。考え方の中心に据えたのは企業理念です。サンデンは企業理念の中で「かけがえない美しい地球を次の世代の人々に引き継ぐために、企業活動のあらゆる面で環境の保全に配慮して行動します」と定め、これを普遍的な価値と捉えています。また、サンディンググループには、1993年10月に制定(1997年5月改訂)した「サンデン環境憲章」があります。

サンデン環境憲章は環境に対する基本的考え方である「環境理念」と、全社員が守るべき「環境行動指針」で

構成されており、国内外のサンディンググループ全社員がこれに基づいて環境保全に配慮した活動を展開しています。

環境憲章

環境理念

サンデンは、グローバルな企業市民として、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、安全で美しい地球を次の世代の人々に引き継ぐために、企業活動のあらゆる面で環境の保全に配慮して行動する。

環境行動指針

1. 地球環境の保全活動を推進するための組織を整備するとともに、その活動を確実にするために、環境監査を実施し、活動の維持向上に努める。
2. 企業活動により生じる環境負荷を的確に把握し、環境目的・目標を設定し、技術的・経済的に可能な範囲で、継続的な環境負荷の低減を図る。
3. 地球環境に関するあらゆる環境規制を遵守するとともに、自主管理基準を設定し、汚染の予防とより一層の地球環境保全に取り組む。
4. 地球環境に負荷を与える有害物質は、代替技術の採用、代替物質への転換、回収、リサイクルなどを行い、可能な限り削減する。
5. 企業活動のあらゆる面で、省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の削減に取り組む。
6. 地球環境保全に関する意識の向上を図るために、全社員に対して、環境教育、社内啓蒙活動を実施する。
7. 広く社会に目を向け、地域社会の環境保全活動に自主的に参加することにより、地域社会の一員として社会に貢献する。
8. 地域環境の保全についての理解と協力を得るために、広く社会に対して広報活動を行い、必要に応じて情報を公開する。

環境活動による社会貢献

サンディンググループは、自動車機器システム事業、流通システム事業、住環境システム事業の各事業分野で製品・システム・サービスをお客さまに提供している企業であり、それらのライフサイクルを通じて環境負荷低減に取り組んでいます。サンディンググループの強みである独自の技術力によって、これからも地球環境保全に貢献し

ていく考えです。そのためにも、「環境憲章」に基づく環境活動を重要な取り組みとして位置付け、サンデンホールディングスと7つの事業会社、さらに国内外のグループ会社でグローバルに展開していきます。

環境活動については、2014年度にスタートした第3次中期環境基本方針に沿って具体的に定めた目標に対する達成状況を検証していきます。

サンディンググループ「中期環境基本方針」

指針

サンディンググループは、環境のパイオニアとして、技術開発とモノづくりを基本に、顧客のためになるよい製品・システム・サービスを提供し、社会に貢献する。

戦略

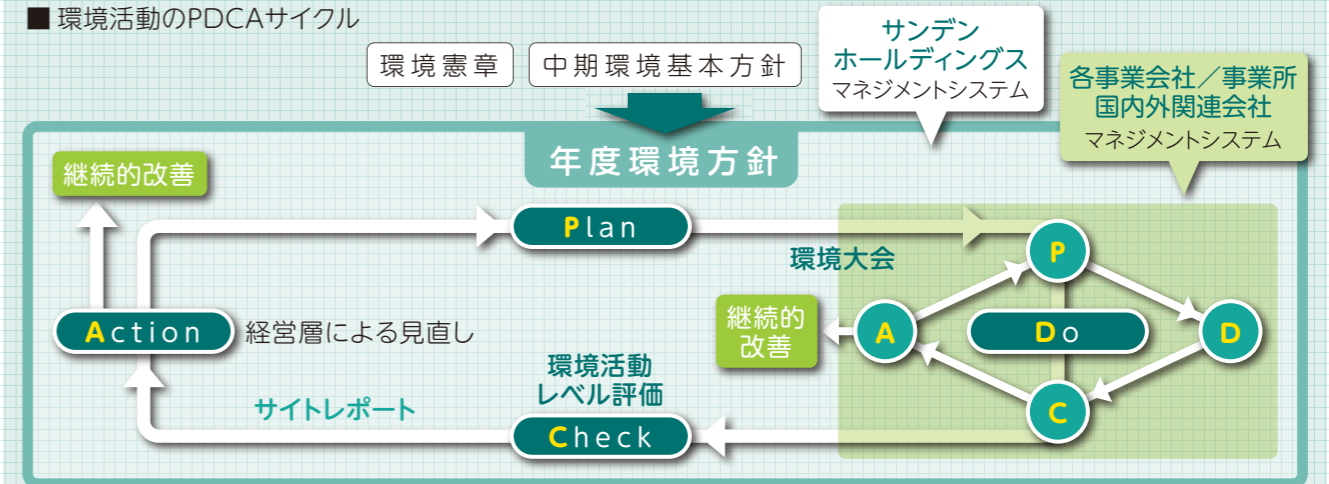
- ① **Green Technology**: 独自環境技術開発による製品環境価値の向上
[目標] 製品環境指標の達成(目標値は製品別に設定)
- ② **Green Process**: あらゆるムダの徹底排除による環境負荷低減
[目標] 環境負荷低減 ・エネルギー使用量 15%以上
・廃棄物排出量 15%以上 ・水使用量 5%以上
・有害化学物質排出量 5%以上
(すべて売上高原単位 2013年度実績比)
- ③ **Green Management**: グローバル環境ガバナンス強化による環境活動レベル向上
[目標] 環境活動レベル 全サイトA以上
- ④ **Green Communication**: 外部連携と情報発信による、環境ブランド向上
[目標] 外部評価 ALレベル

環境基本方針と環境マネジメントサイクル

中期環境基本方針は「Green Technology」「Green Process」「Green Management」「Green Communication」の4つの「Green」から成ります。最終目標年度である2018年度まで年度ごとにそれぞれ具体的な目標値を設定しますが、それらを実現するために必要となるのが環境活動のPDCAサイクルです。

各事業会社・事業所はそれぞれの事業領域において環境基本方針に基づく事業活動を行い、継続的改善を試みながら環境活動のPDCAサイクルを回します。さらに持株会社であるサンデンホールディングスは、各社のサイクルを「Do」とする環境活動のPDCAサイクルを循環させ、継続的な改善に取り組んでいきます。

環境活動のPDCAサイクル



特集

CSR活動推進における環境活動2 4つの「Green」戦略で 環境と産業の共存を目指します

サンデングループは「企業理念」の基本原則のひとつとして環境を置き、1993年には「環境憲章」を定めています。経営方針の中核を成す環境への取り組みは、2014年度に策定した「中期環境基本方針」に基づいて目標設定し、活動しています。4つの「Green」戦略で構成する「中期環境基本方針」に沿った事業活動を通じて「環境マインド」を持った社員を育成し、環境技術を活かした技術開発・モノづくりと、あらゆるムダの徹底排除による環境負荷の低減を通じて社会に貢献していきます。サンデンが取り組む4つの「Green」戦略について説明します。

Green Technology 製品環境価値の向上

サンデングループは、2011年度からすべての新製品に対して「製品環境指標」を導入しています。「省エネルギー」「小型・軽量」「効率」の3要素について、比較対象機種を「1」とし、その機種に対する優位性を3要素それぞれ1%単位で算出し、掛け合わせた数値を指標としています。この数値を「0.9以下」にすることを目標として取り組んでいますが、2014年度にスタートした「中期環境基本方針」では、「0.9以下」の目標を維持しつつ、製品開発の間隔が長い事業・機種においては長期間の優位性が確保できるよう、環境性能のより高い製品開発に取り組んでいます。

現在、サンデングループでは「冷やす・暖める」を中心とした製品の環境技術の核として、自然冷媒技術の進化に取り組んでいます。1996年に米国環境保護庁(EPA)から「オゾン層保護賞」を受賞するなど、早くから冷媒による自然環境への影響を注視してきました。冷媒として自然界に存在する二酸化炭素(CO₂)を使用した高効率コンプレッサーを搭載した製品を、自動販売機、冷凍・冷蔵ショーケース、ヒートポンプ給湯機を中心に展開し、製品による環境貢献を推進しています。



オゾン層保護賞



Green Process 環境負荷の低減

サンデングループは、事業活動にかかわるすべての工程(プロセス)におけるあらゆるムダを徹底して排除することで環境負荷の低減を実践してきました。「中期環

境基本方針」では、削減対象として管理する環境負荷を「エネルギー使用量(CO₂排出量換算で管理)」「廃棄物排出量」「水使用量」「有害化学物質排出量」とし、削減目標として「エネルギー使用量15%以上(スコープ1、2)」「廃棄物排出量15%以上」「水使用量5%以上」「有害化学物質排出量5%以上」(いずれも売上高原単位、目標年2018年度、2013年度実績比)を設定しました。また、より一層の環境負荷低減のため、2015年度からは、原単位削減に加えて「使用量/排出量の総量」での削減に向けて取り組んでいます。

さらに「エネルギー使用量」については、スコープ1、スコープ2に加えてスコープ3についての算出も行っており、スコープ3排出量の削減にも取り組んでいます。

スコープ1、2、3とは

- スコープ1…化石燃料・天然ガス等のエネルギーを燃焼させることにより、当社が直接排出する温室効果ガスの量
- スコープ2…電力エネルギー等を外部から購入することにより、当社が間接的に排出する温室効果ガスの量
- スコープ3…スコープ1、スコープ2以外で、当社ビジネスにかかわるサプライチェーン全体にわたって排出する温室効果ガスの量

Green Management 環境活動レベルの向上

環境保全への具体的な取り組みは、各地域、拠点、事業会社、部門などが個別に実施していますが、取り組みの結果や、結果から導き出される外部評価はサンデングループ全体に対するものとなります。したがって、活動を取り巻く環境や状況に違いがあっても、取り組みに温度差やばらつきがあってはなりません。サンデングループでは、国内外の生産拠点を中心に、環境推進本部からの質問への回答に基づき環境活動のレベル評価を行っています。持株会社化による変化をチャンスと捉え、個々の環境活動レベルを向上させる取り組みを強化しています。

「中期環境基本方針」では、「全拠点の環境活動レベルA以上」と目標を定め、新興国を中心とした未達成拠点を重点的に、環境活動の活性化に取り組めます。また、環境教育を強化し、「サンデン環境マインド」を持った社員をグローバルに育成していきます。

環境と産業の矛盾なき共存—— サンデンフォレスト・赤城事業所

サンデンの目指す姿は、サンデンフォレスト・赤城事業所で具現化されています。自然活動のフィールドとして広く活用される緑豊かな森の中の工場で、最先端技術による環境製品の開発生産を行っています。「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」受賞(2013年)、「SEGES(社会・環境貢献緑地評価システム) Superlative Stage」認定(2014年)など、高く評価され、サンデンの「環境のシンボル」となっています。

Green Communication 環境ブランドの向上

環境保全に対するサンデングループの様々な活動や取り組みは、社外から注目されており、それらはサンデンという企業グループの評価にもつながります。確かな技術に裏打ちされた製品の環境性能に対するお客さまの評価はその代表例です。

「中期環境基本方針」においては「外部連携と情報発信による環境ブランド向上」に取り組み、客観的に高い評価を得られることを目指しています。

サンデンフォレスト・赤城事業所での取り組みをはじめ、世界各地における地域社会での環境イベントへの参加や独自の活動、自治体・経済団体等との協業、さらには国際環境会議への参画等を通じて社会と連携し、環境への取り組みを充実させるとともに、製品による環境貢献も含めた社内外での環境保全活動の効果的な情報発信により、「環境のサンデン」のブランドを確かなものにしていきます。

